

SHINNOSUKE KAWAI

2017年度大阪
テクノマスター
OSAKA TECHNO MASTER

川合 真之介

株式会社エンジニア 技術部 開発課 課長

工具は、「モノ」を「つくる」原点



革命は2度起こる

潰れたネジも、ガッチリ掴んで外すことのできる工具「ネジザウルス」の真髄はもちろんその機能性だ。それが1つ目の革命。だが、そこに従来の工具にはなかった「カッコよさ」を付け加えた点が、ネジザウルスの2つ目の革命といえるのではないだろうか。その「カッコよさ」を創造したのが、川合氏だ。入社時は資材部に配属。あるとき、同社の高崎社長に「工具のデザインをしたい」と申し出た。それまでデザインの経験などなく、そこから初めて、デザインについて学び始めた。そんな同氏のデザインの根幹にあるのは「カッコよさ」だ。プロのデザイナーに“けちゃんけちゃん”に言われたこともあるのだとか。けれど、自分の思い描く「カッコよさ」に対するブレない姿勢があった。「優れた機能があるのはもちろん、そこにカッコよさを追加することで工具を欲しいと思ってもらう。(株)エンジニアの工具を持つことのステータスというのも大事にします。」同氏の言葉には、工具への思いがあふれている。



デザインカ

グッドデザイン賞受賞(2009年、2014年、2015年、2016年)

iFデザイン賞受賞(2011年、2017年)

受賞したものは、すべて同氏がデザインした製品だ。同氏の「カッコよさ」「工具」への思いが、すばらしい評価として実を結んでいる。



※iFデザイン賞は、プロダクトデザインにおける世界3大アワードの1つである「インダストリー・フォーラム・デザイン・ハノーファー」のデザイン賞。

できることはすべて社内でやる!



＜機能性と「カッコよさ」を合わせもつ工具を追求する＞

工具の世界において、ネジザウルスシリーズで有名な株式会社エンジニア。現在、同社技術部開発課の課長を務めるのが、川合真之介氏である。川合氏は、最新の3D-CADや3Dプリンターを駆使するとともに、手作業による試作モデルの修正・作成にも優れ、新製品発案、企画、製品設計からパッケージ設計、開発完了まで一貫して行うことができる優れた技能者だ。

■所属企業概要

株式会社エンジニア 事業内容:プロフェッショナル用工具メーカー
〒537-0011 大阪市東成区東今里2丁目8-9 TEL:06-6974-0028/FAX:06-6974-5661
http://www.engineer.jp/



同社の戦略であるMPDP理論とスピード

M=マーケティング、P=パテント(特許)、D=デザイン、P=プロモーション。これらが、すべて機能したときにヒット商品が生まれるという理論を、同社は経験から確立している。お客様の声に丁寧に耳を傾け(M)、知的財産を有効に活用し(P)、機能性と「カッコよさ」を兼ね備えたデザインを創造し(D)、効果的にプロモーションを行う(P)。川合氏自身が、お客様の意見を直接聞きに行くこともある。生きた声につねに耳を傾け、より使いやすく、かつかっこいい製品作りに向け、設計やデザインに改良を加える。その技量とスピードにおいて右に出るものはいない。

修理する文化

「今の若い子に、自分で修理する文化を根付かせたいという思いがあります。」壊れたらすぐに新しいものを買うということが当たり前になっている今、直す・修理するっていう発想がなかなかでてこない。それぞれのモノに愛着をもってれば、修理して長く大切に使おうと思う。それに「直すならちょっとカッコよく直そうよ。そこから発想力も生まれる。」『モノを大事にすること』を子どもたちに伝えたいと川合氏は言う。

【趣味も《ものづくり》】

趣味はシルバー細工で、銀の地銀を削ったり、彫ったりして加工する「彫金」と言われる作り方が好きだとのこと。自分の手で削り、彫り、叩き、切る。それが「形」になるおもしろさがあるという。「けれど、何よりも嬉しいのは、作ったものを友人達が、「かっこいい」「ほしい」と言ってくれたときと、満面の笑顔で語る。仕事でやりがいを感じるときは、製品ができあがった瞬間以上に、お店でお客様がネジザウルスを手に取ったときだという。そんな川合氏は絶対に『ものづくり』が大好きだ。

